

# 事業概要説明シート

事務事業番号 32978

事務事業名	中央図書館運営事業[中央図書館]		
事業開始年度	平成17(2005)年度	担当部署	社会教育部 中央図書館

根拠法令	枚方市立図書館条例
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託又は指定管理(委託先又は指定管理者: ) <input type="checkbox"/> その他( )
目的 (何のために)	枚方市立図書館の核として、図書館運営にかかる企画立案、読書活動の推進、関連機関との連携等図書館サービスの中心となる。
対象 (誰・何を対象に)	市民 (北河内7市の市民が相互に利用できる広域利用も実施)
事業内容	<p>枚方市立図書館サービスの核として、幅広い分野の図書館資料を所蔵し分館、分室、自動車文庫の貸出利用を支援している。選書業務や他の自治体との相互貸借、障害者サービス、参考業務、児童サービスなどの中心となり、また図書館全施設の維持管理業務などを行っている。また、中央図書館周辺地域の図書館としてのサービスも担っている。</p> <p>生涯学習の一環として図書館活動等への市民参加の仕組みを作り、毎年100人を超えるボランティアを受け入れている。</p>
類似事業	なし
事業の必要性	市民の教養、調査研究、余暇活動等に資するための図書館サービスの拠点として必要である。

コ ス ト		H22年度決算		H23年度決算		H24年度当初予算	
		従事職員数	概算人件費	従事職員数	概算人件費	従事職員数	概算人件費
正職員	7.72 人	62,640 千円	8.93 人	72,244 千円	8.93 人	71,440 千円	
再任用職員	1.80 人	6,314 千円	2.00 人	6,900 千円	2.00 人	6,942 千円	
非常勤職員等	18.5 人	53,933 千円	20.9 人	59,095 千円	20.9 人	59,095 千円	
人件費計(A)		122,887 千円		138,239 千円		137,477 千円	
直接経費(B)		25,946 千円		24,785 千円		千円	
総事業費(A+B)		148,833 千円		163,024 千円		137,477 千円	

財源内訳		H22年度決算		H23年度決算		H24年度当初予算	
国庫支出金			千円	3,054 千円		千円	
府支出金			千円			千円	
受益者負担 (使用料等)			千円			千円	
その他			千円			千円	
一般財源		148,833 千円		159,970 千円		137,477 千円	

平成23年度 事業費の主な内訳 (人件費除く)	内 容	金 額
	中央図書館管理運営経費(光熱水費21,148、修繕料533、通信運搬費1,530、使用料及び賃借料663、庁用器具費701、報償費70、役務費65)	24,710 千円
	図書館行事経費(消耗品費、図書館分館運営事業・図書館分室運営事業と按分)	17 千円
子ども読書活動推進経費(報償費、図書館分館運営事業・図書館分室運営事業と按分)	56 千円	

# 事業概要説明シート

事務事業番号 32978

事務事業名	中央図書館運営事業[中央図書館]		
事業開始年度	平成17(2005)年度	担当部署	社会教育部 中央図書館

	活動指標もしくは成果指標	単位	H22年度	H23年度	H24年度(見込み)
活動実績	① 貸出冊数	冊	1,276,649	1,156,854	1,200,000
	②				
	③				
単位当たりコスト (総事業費/活動指標)	① 1冊あたりの貸出コスト	円	129	140	114
	②				
	③				
成果目標 (目標とする成果)	社会教育機関として、知の源泉となる図書館資料を提供して、市民の読書を推進し生涯学習を支援する。また市民の生活や仕事に役立つ地域の情報拠点として、社会が高度に情報化する中で豊富で確かな情報を集め提供する。				
比較参考値 (他自治体での事業の例など)	枚方市立図書館は、平成22年度、政令市と特別区を除いて貸出冊数日本一				
特記事項					
一次点検における事業の今後の方向性及び具体的な今後の取り組み方針	現状のまま継続	今後も図書館ネットワークの拠点として機能させていく。			
一次評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・31010事業と共に、効率性・有効性の検証が必要では</li> <li>・今後の図書館サービスの中で、中央図書館、分館、分室それぞれにおける役割分担とあり方について見直しが必要では</li> </ul>				
二次点検における事業の今後の方向性及び具体的な今後の取り組み方針	現状のまま継続	中央図書館を核として、分館・分室を、コンピュータ・図書搬送等のネットワークで結ぶことにより、全館・分室が一体となった同じ図書館サービスを行っている。また中央図書館は、地域の図書館サービスの提供に加え、分館・分室、自動車文庫を支援する機能を持ち、管理機能など図書館施策を総合的に推進する役割を持つ。将来を見据え、正職員司書を中核として、多様な任用形態の職員も活用して最適な職員配置の具体化に向けて取り組む。開館時間についても、利用状況に即して見直す。			